

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 豊かでたくましい人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 学びを人生や社会に活かす「学びに向かう力・人間性等」を醸成できる生徒・教職員の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、一人ひとりに応じた学びと支援の充実

2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校（感染症対策を継続し、生徒相互で正しい知識と理解を深める。個々の対応を踏まえ、集団づくりと人権意識の育成）
 - (1) 生徒相互にとって安全で安心な『**学びの場**』づくり《学校環境整備の充実として各準備室等の入替えて、生徒の居場所等の構築》
 - ア 基本的なコミュニケーションの取り方と対話のある授業実践を生徒の主体的な行事等を通じ育成。大阪府総合学科研究発表大会への取り組み
 - イ 危機管理体制（防災計画）の点検・見直し。「新しい生活様式」への対応《「教職員防災必携」携帯・施設の老朽化「修理・改修・新規」》
 - (2) 教職員の意識改革と健康管理の徹底《働き方改革の取り組み→長時間勤務縮減/在校等時間管理/全校一斉退勤日/ノークラブデー推進/学校閉庁日》
 - ア 生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携（生徒の学び・育ちの原点・食育をベースにした行事等で1回/年を計画）
 - イ 健康意識の涵養と学校生活を通じて安全・衛生管理（感染源・感染経路を絶つ、抵抗力を高める、食物アレルギー、熱中症、食中毒の予防）
 - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制 《生徒に向き合う時間確保…家庭訪問等・定例会議・役割分担の見直しを検討》
 - ア 「規範意識の醸成」に繋がるよう生徒の主体的な対話等を活かし、学校運営協議会の意見を元に、画一的にならないルール等の見直し・改善
 - イ 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進と研修、支援学校との「交流及び共同学習」を「多様な学びの場」とする
 - ウ 進路選択支援事業、教育相談・人権推進の体制を含め、ICT活用した教員研修の充実・共有《将来構想への取り組み、学校の組織的な取り組み》
- 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実《自己有用感を生徒に伝え、実感させる機会として、SDGs 関連の取り組み》
 - (1) 生徒会活動や部活動・行事等を中心とした地域との協働《Webページの情報発信をチーム化で対応。積極的に写真等をアップしていく》
 - ア 体育祭や文化祭などの実行委員会等は、生徒の意見を採り入れ、生徒会・実行委員会等を生徒中心に運営し、主体的な活動に改善
 - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（はつがの祭りや地域の挨拶運動、お掃除ボランティアなど）
 - ウ 体験的な行事、情操教育の啓発を授業作品の展示や生徒会活動、クラブ活動など横断的に活性化を図る
 - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的に決定する力を育てる）
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について、個々の端末でICTを効果的に取入れ、外部人材等と協働、相談に活かす
 - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の『**気づきの場**』に繋げる
 - ウ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等、生きて働く「知識・技能」の習得。ICTを活用し「学びに向かうチカラ」の育成
 - エ 進路希望に応じた適切な情報を提供し、自己の適性能力を発見することで学びの深化を図る（進路決定率 令和5年度 94.4%以上）
《平成30年度 79.6%、令和元年度 78.5%、令和2年度 78.4%》
- 3 エンパワメントスクールの授業における計画・実践（指導）・評価・改善の定着《- 1人1台の端末の導入を踏まえ、生徒の学びと育ちを支援 -》
 - (1) 「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践を充実するため、ICT活用を効果的に「学びに向かう力・人間性等」を育成
 - ア 授業の実践に電子黒板等ICTを活用し「できた。わかった。もっとできる」など観点別学習状況、指導・評価の一体化で自己肯定感を育む
 - イ 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」体験的な行事などにSDGsの取組みを活用。「チームいざそう」による『**実践の場**』の充実・発展
 - ウ 生徒の学びと育ちを支援に繋げ「進級・卒業」の取組や追認補講等の制度の検証・その機会毎の時期に応じ、全ての内規等の見直しを実施
 - (2) 学校広報活動や研究授業等の充実を図る《リーフレット等・中学校訪問を含め活動の展開を通じて、情報モラルの育成を図る》
 - ア 公開授業週間などの活用と保護者が参観できる日程の精査を検討《多様な学びを可能にする授業研究協議の充実》
 - イ 様々な授業手法について研鑽し、先駆的に取り組んでいる学校・イベント等の見学を実施。その情報を共有しESの系列等に反映・充実
 - (3) 通級指導教室の成果等を共有し、支援の必要な生徒への対応として、新しいカリキュラムの開発を研究。生徒のニーズに繋がる展開を進める
 - ア 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実として、支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を構築
 - イ 将来の進路を主体的に選択できる情報提供と現場実習等の体験学習を充実させるとともに「個別的教育支援計画」等の作成をチームで対応

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」が58.2%、「エンパワメントスクールに入学してよかった」との回答は66.7%や「担任の先生以外に相談できる」の生徒は60.3%・教職員も80.3%と(改変後いずれも最高値)である。学校での安全・安心の場も完成したので、学校への定着は出来ている。その反面、コロナ禍の影響か、学校全体の欠席数は約4000日、遅刻数は約6500日と増加し、併せて懲戒件数も増加(129件)している。</p> <p>また、「命の大切さや社会のルールについて、学んでいる」が66.8%となり、18歳成人年齢にむけて、生徒の成長を感じている。今後は、学校運営協議会の意見を取り入れ、生徒指導部のルールを見直し、納得性を高めることが課題である。今後は、より良い選択ができる社会人に成長するよう、生徒と対話を通じ主体的に行動できる時期にシフトしていくことが肝要であると考えている。</p> | <p>第1回：令和3年5月28日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の活用で学びの保障を、オンライン授業や校内ICT化に伴うWi-Fi環境の整備の質問が多かった。「居場所カフェ」などの活用を考えてもらいたい。生徒の学びに向かう環境づくりは「読み書きそろばん」を中心に、学び方を学んでいく丁寧さが必要であると指摘。(コロナ禍の緊急事態宣言下なので、時間短縮で開催)。 <p>第2回：令和3年11月5日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業においても学習支援クラウドサービス・動画配信サービスの活用を試み、ICT化が進んでいることに評価を頂いた。校則について、時代に合ったカタチで生徒の意見や気持ちを踏まえ、生徒とともに作ってほしいと示唆を受けた。 <p>第3回：令和4年1月28日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の内規の変更も、その都度見直しを含め方法を検討するべき。また、学校教育自己診断では「エンパワメントスクールに入学してよかった」の回答は66.7%、保護者も74%の最高値。コロナ禍が2年間継続で、この順調な成果は素晴らしい。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R2年度値] | 自己評価 |
|-------------------------|--|--|---|---|
| 1 安全で安心な学校生活を送れる学校 | <p>(1) 安全で安心な学びの場 ア 基本的なコミュニケーション イ 危機管理体制、緊急事態発生時の対応</p> <p>(2) 教職員の意識改革と働き方 ア 生活習慣の確立 イ 健康意識の涵養と学校生活</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア 生徒の主体的な対話とルール イ 「ともに学び、ともに育つ」教育推進 ウ 教育相談・人権推進委員会の体制 外部人材の活用</p> | <p>(1) 生徒相互にとって安全で安心な生活できる場と人間関係の育成・学校環境整備 ア・主体的な対話を育むため外部人材等を活用。体験的な学習・行事・環境整備等で育成 イ・コロナ禍の状況に応じた体制の構築 ・保健委員会等で学校三師の連携や示唆</p> <p>(2) 学び続ける意識と働き方改革等への取組み ア・「あいさつ運動」と健康チェック イ・健康診断で尿検査の受診率を維持 食育等の取組み</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア・規範意識の醸成をめざして生徒・教職員との対話を重視、生徒のニーズを踏まえたルール等の見直し ・保護者懇談などにより保護者と連携を深め、寄り添い、粘り強く指導 イ・「ともに学び、ともに育つ」教育と交流及び共同学習の充実 ウ・教育相談委員会等とSC/SSW/CCの連携をさらに深め、研修を充実。また、進路選択支援事業等を継続発展。 教職員の負担軽減を図る</p> | <p>(1) 安全・安心の場の居場所創り マルチ対応会議室の整備・老朽施設改修 ア・コグトレ・SC/SSWの活用 [50回] イ・臨時休校対応と学びの保障等の確認 ・保健委員会等は2回/年 (R2年度 感染対策で書面開催)</p> <p>(2) 働き方改革等で全校一斉退勤の確認と在校時間管理の取組み ア・生活習慣確立(R2 感染対策継続) イ・受診率の維持 [100%] 食育等への関心・実習等を学期毎に1回 (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議を学期毎に1回 ア・懲戒件数の5%減少とルール見直し [94件] ・のべ欠席日数の減少 [5178日] ・遅刻数の減少 [10921人] イ・支援等の研修を1回/年実施 ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の見直し [20回] 校内研修や伝達講習を1回/年実施</p> | <p>(1) 安全・安心の場の居場所創り マルチ対応会議室の整備(◎) 老朽施設改修雨漏り修理実施(○) ア・コグトレ・SC/SSWの活用[50回](○) イ・臨時休校対応メール/Webシステムの整備が完了(○) 学びの保障等は学習支援クラウドサービスの活用(◎) ・保健委員会等は1回/年(△)</p> <p>(2) 働き方改革等で全校一斉退勤の確認と在校時間管理毎月精査 (○) ア・生活習慣確立R3 感染対策継続 イ・尿検査受診率の維持[99.1%](○) 食育への関心・実習等コロナ対応(-) (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議を学期毎に1回 (○) ア・懲戒件数5%減少→37%増加(△) [94件] → [129件] ルールの内規を見直し(◎) ・のべ欠席日数の減少[10407日](△) ・遅刻数の減少 [20149人] (△) イ・支援等の研修を3回/年(◎) ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の見直し [17回] (△) 校内研修や伝達講習を1回/年(○)</p> |
| 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実 | <p>(1) 生徒会活動・部活動地域との協働 ア 生徒の主体的な活動 イ ボランティア活動の充実 ウ 体験的行事・情操教育</p> <p>(2) 3年間のキャリア教育の推進 ア 職業観・勤労観とICT活用 イ 生徒の「気づきの場」の機会 ウ 未知の状況に対応できる判断力等、学びに向かうチカラの育成 エ 進路希望に応じた情報、自己の能力発見</p> | <p>(1) 生徒会活動・行事等を中心に地域と協働 ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす。行事日数の見直し イ・ボランティアや地域との連携 ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取組み、体験・芸術等の情操教育の充実</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・地元企業と協力やキャリアコーディネーター等の外部人材の有効活用 イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成 エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう寄り添い、粘り強く指導を行う。</p> | <p>(1) 生徒会活動、行事等で地域と協働 ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」の向上 [生徒 54.2%] [教職員 57.9%] イ・SL運行等の地域交流1回/年 地域小中学校等の連携を含む ウ・クラブ加入率を2%上昇 [116人 20.1%]</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育推進 ア・外部人材等との学年団等の連携 [178回] 1/2程度維持 イ・学校斡旋就職希望者の合格率維持 [71.1%] ・資格取得者の維持 [20人] ウ・SST/プレゼン活用したコミュニケーション力の養成 各学期に1回 エ・就職面接練習参加率 [100%] ・進路決定率 [77.6%]</p> | <p>(1) 生徒会活動、行事等で地域と協働 ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」の向上 [生徒 68.2%] [教職員 68.9%] (◎) イ・SL運行等はコロナ禍で中止(-) 地域小中学校等の天体観測とテクノボランティア班の「子どもさわやか賞」受賞(◎) ウ・クラブ加入率を2%上昇 [87人/575人 15.1%] (△)</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育推進 ア・外部人材等との学年団等の連携は [154回] となった。来年度はオンラインでも連携を計画 (○) イ・学校斡旋就職希望者の合格率増加 [89.5%] (◎) ・資格取得者の維持 [21人] (○) ウ・SST/プレゼン活用したコミュニケーション力の養成は学校説明会に 実施した計4回 (○) エ・就職面接練習参加率 [100%] ・進路決定率 [78.2%] (○)</p> |

府立和泉総合高等学校

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| <p>3 エンパ ワメン トスク ール【 ES】授 業の計 画・実 践・評 価・改 善</p> | <p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア「できた。わかった。もっとできる」と感じられる授業 イSDGsの取組みと総合学科研究発表大会 (2)学校広報活動や研究授業の充実 ア 多様な学び イ 授業手法研鑽、先駆的な学校・イベント見学 (3)通級指導教室と新カリキュラム ア 支援の充実 イ「個別の教育支援計画」の活用</p> | <p>(1)観点別学習評価にICTを効果的に取り入れ、主体的・対話的な深い学びに繋げる ア・授業に指導と評価の一体化が判るように具体例を示し、実践を通じ同僚性を高める 定期考査の再考と観点別学習評価等の検証 イ・各学年団と生徒の横断的な繋がり SDGsの取組みを学校全般で活用 「実践の場」である総合学科研究発表大会 (2)学校の広報活動としてWebページの充実 展 ア・教員相互が授業に関する意見交換 イ・エンパワメントスクールの授業研修 ICT活用を1人1台端末に対応と学びの深化にグループウェア (3)通級指導教室の成果共有 ア・支援コーディネーターと組織の取組み イ・現場実習等の体験学習の充実と「個別の教育支援計画」の活用 地域の支援学校との協働と連携</p> | <p>(1)「魅力ある授業」の創造 ア・指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業2回/年 イ・1年次の進級者数向上 [197人 進級率92.4%] ・学校教育自己診断の学校の楽しさで満足度を図る [56.0%] ・総合学科研究発表大会へ参加発表 (R2年度 感染防止のため中止) (2)学校広報活動や公開授業の活用 ア・「エンパワメントスクールに来てよかったの」項目2%増 [62.1%] イ・グループウェアの校内活用2回/年 オンライン学習を授業実践に活かす 教員研修1回/年 (3)通級指導教室の成果共有 ア・校内委員会等での学習会1回/年 イ・地域の支援学校との連携2回/年 教員相互の交流機会の充実を長期休暇中に実施 2回/年</p> | <p>(1)「魅力ある授業」の創造 ア・指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業 3回/年 (○) イ・1年次の進級者数向上 [170人/206人 進級81.1%] (△) ・学校教育自己診断の学校の楽しさで満足度を図る [58.2%] (○) ・総合学科研究発表大会へ参加発表 R3年度は書面開催となる (ー) (2)学校広報活動や公開授業の活用 ア・「エンパワメントスクールに来てよかったの」項目2%増 [66.7%] (◎) イ・グループウェアの校内活用として、全校集会等で実施 6回/年 (◎) オンライン学習を授業実践に活かす 情報リテラシー研修、技術研修2回の計3回/年 (◎) (3)通級指導の成果共有 ア・校内委員会等での学習会 1回/年 (○) イ・地域支援学校連携 3回/年 (○) 教員相互の交流機会の充実を長期休暇中に実施 3回/年 (◎)</p> |
|---|--|---|--|---|